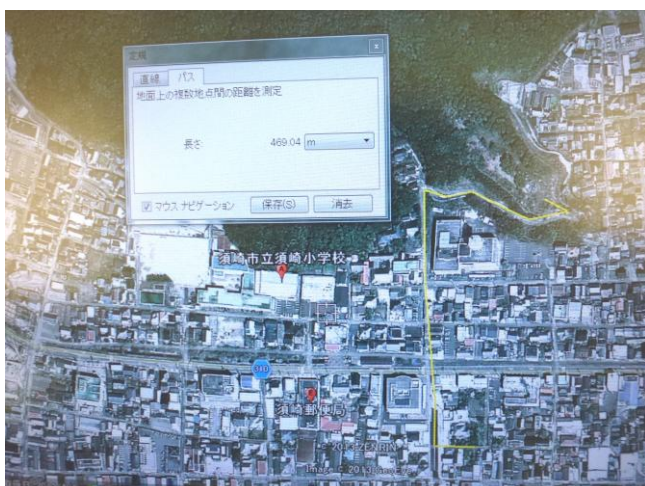
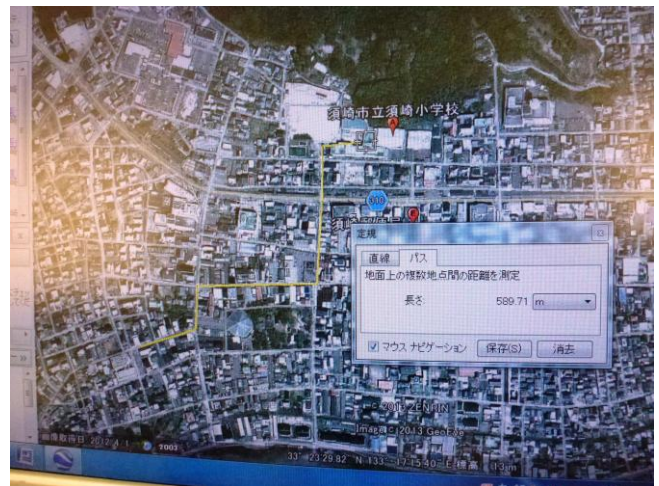


1 昭和南海地震の体験談を聞こう



自主防災組織の方々から昭和南海地震での当時の具体的な被害状況や昭和南海地震と将来予想される南海地震の大きさの違いや被害の違いについてのお話を聞きます。

2 距離を時間を正確に知ろう。



コンピュータを使って

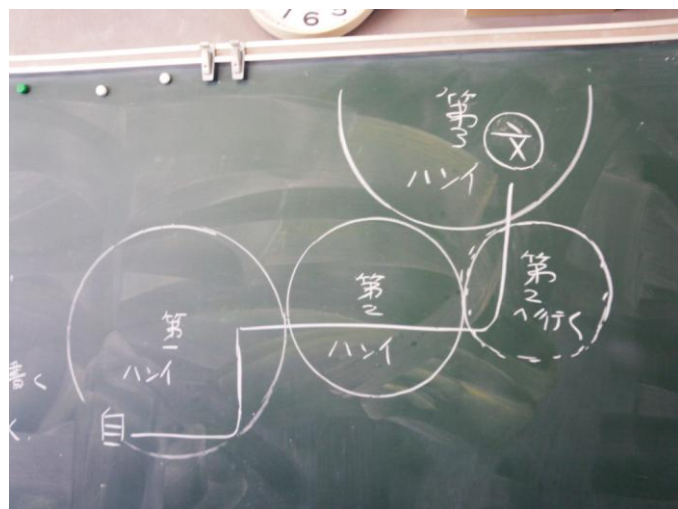
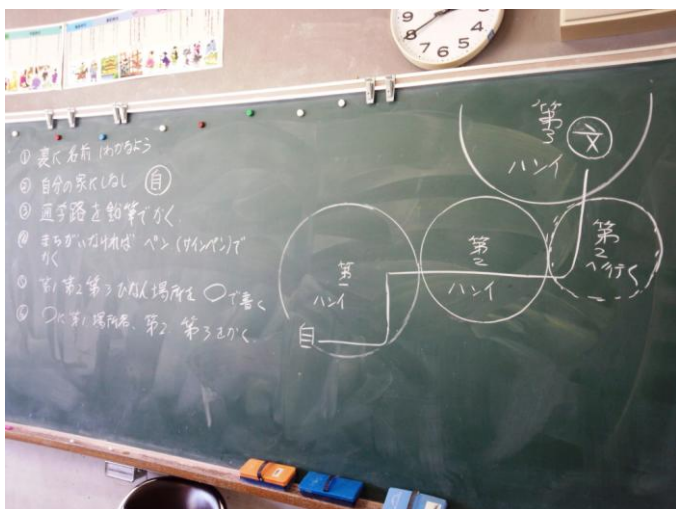
- 1 自宅から学校までの距離
 - 2 自宅から第1避難所までの距離
 - 3 自宅から第2避難所までの距離
 - 4 自宅から第3避難所までの距離を算出します。
- 次に、距離をもとにそれぞれの避難場所への移動に要する時間を計算します。
- これをそれぞれの緊急避難用個人カードに記入します。

3 フィールドワークに出よう。



作成したルートをもとに区域単位でグループを作り、須崎地区自主防災組織の方々に協力を頂き、登下校時の道路の安全状況や避難場所への道のりを自分たちで確認します。道路のマンホールなども津波により危険な個所となることなどの新しい視点を学びます。

4 個人別避難マップを作ろう①。



登下校時の個人別避難マップを作ります

- ① 地図上の自分の自宅をマークします。
- ② 須崎小学校までの安全な通学路を描きます。
- ③ 自宅から学校までの間にある市指定避難場所を自宅に近い場所から第1、第2、第3とマークします。
- ④ 各避難場所の目印となる写真を切り取り貼り付けます
- ⑤ 道路の広さや周囲の建物の状況を思い出しながらそれぞれの避難場所を中心としてコンパスで円を描きます。



- ⑥ 出来上がったマップの裏面に緊急避難用個人カードを添えてラミネートします。
 - ⑦ 登下校時いつでもランドセルに収納しておけるよう A4 サイズで作成しました。
 - ⑧ 災害時にはランドセルからマップを取り出せば、一番近い避難場所が確認できます。
- また、ラミネートしたマップは両手が使えるように首から吊り下げられるようリボンがついています。

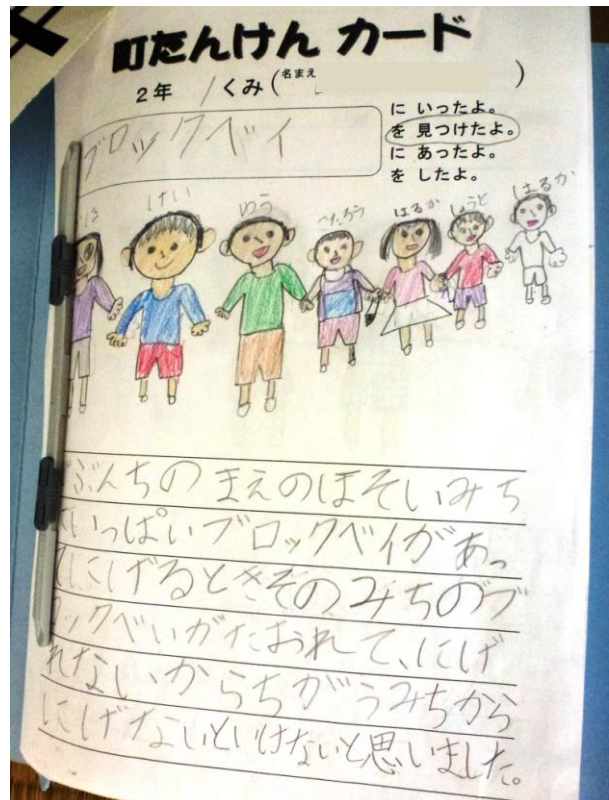
5 マップを実際に確認しよう。



実際の個人別避難マップと須崎市街地の上空写真をもとに実際の通学路や避難道をもう一度検証します。災害時にはおそらくブロック塀や建造物の崩壊で通れなくなると予想される路地や途中から避難場所への道がふさがり、箇所などの予想など色々な意見が出ました。それをもとに子どもたち自身で「個人別避難マップ」の再修正を行います。「より良く、より正確なもの」を目指してこれからも学校全体で取り組んでいきます。

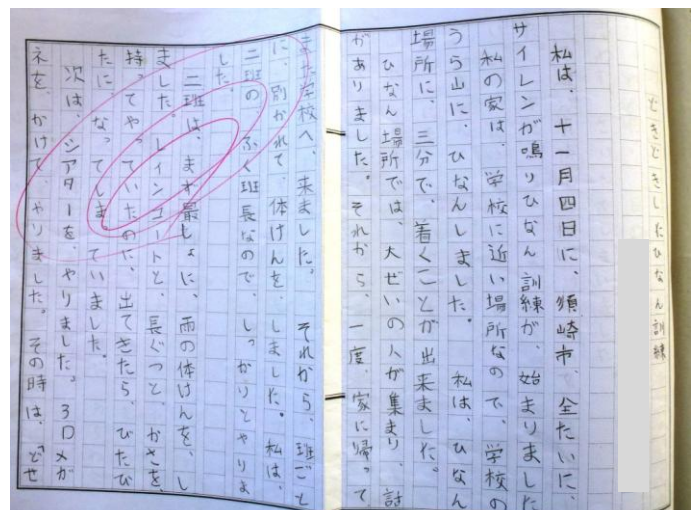
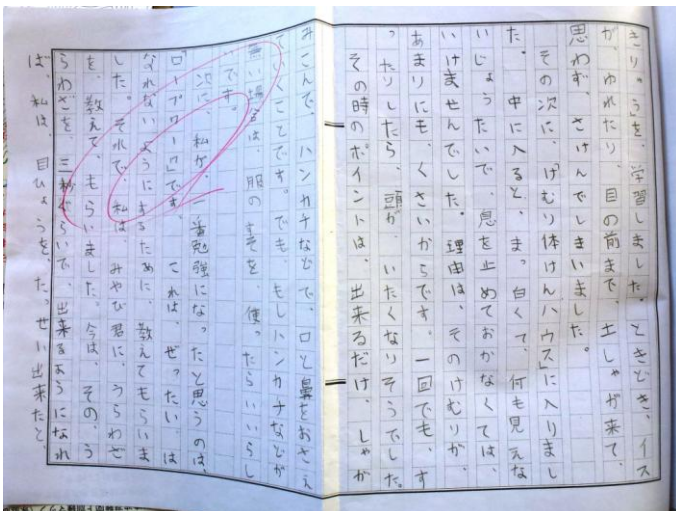
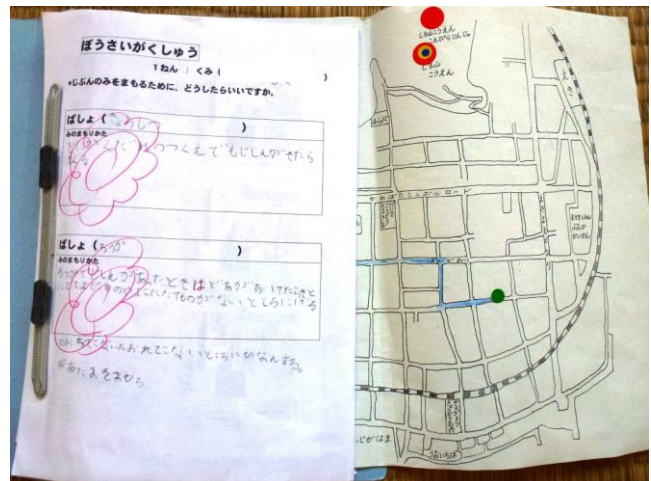
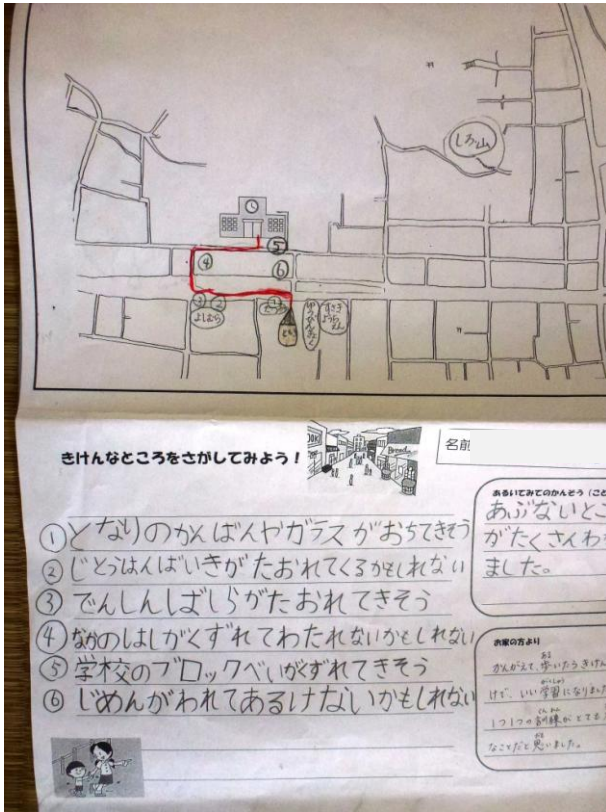
須崎小学校防災教育 児童等作成物（抜粋） #1

◎ 低学年

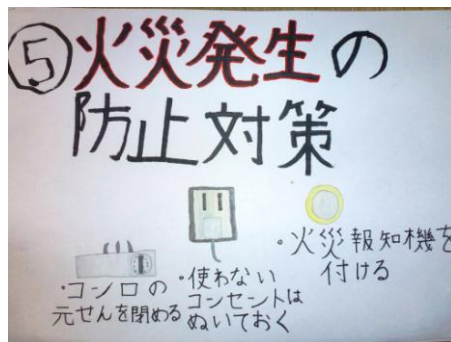


須崎小学校防災教育 児童等作成物（抜粋） #2

◎ 低学年

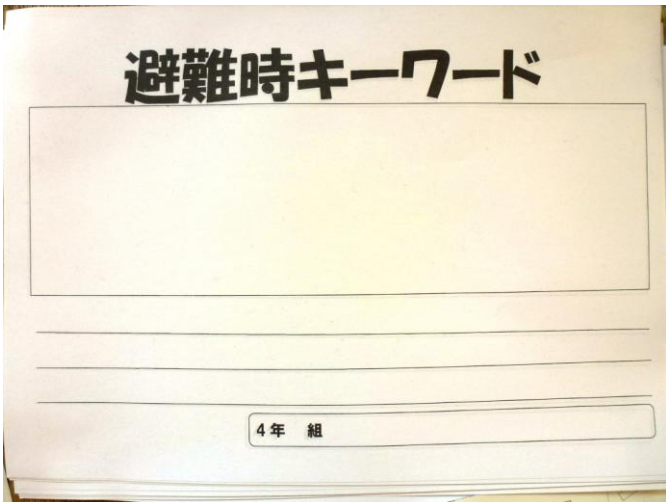
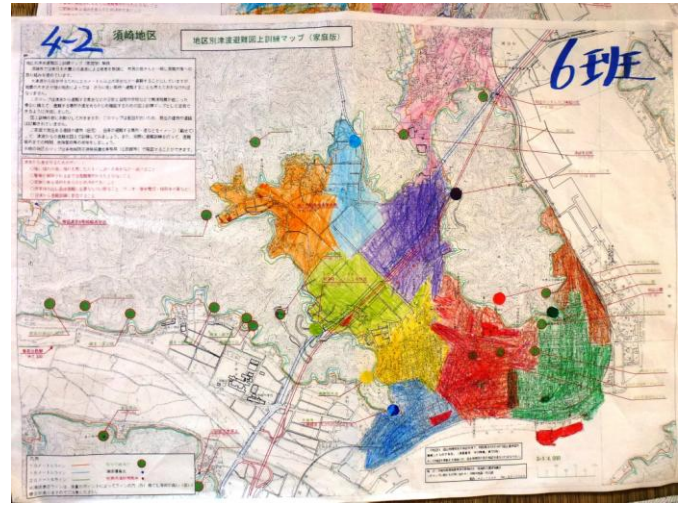
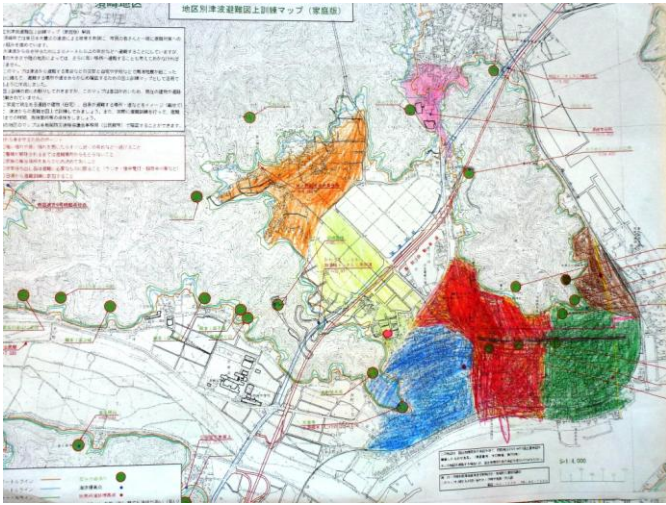


◎ 高学年



須崎小学校防災教育 児童等作成物（抜粋） #4

◎ 高学年



[illegible]

The notebook page features a red title "津波が起こる原因" (Cause of Tsunami) at the top. Below the title, the student has written in Japanese: "直下型の、地震であれば、津波の心配は、ありません。" (In the case of a direct-type earthquake, there is no need to worry about tsunamis). The page is decorated with several diagrams and photographs related to tsunamis. On the left side, there are three small diagrams showing the cross-section of a tsunami wave, labeled "津波の発生" (Generation of tsunami), "津波の伝播" (Propagation of tsunami), and "津波の到達" (Arrival of tsunami). Below these are two photographs of tsunamis, one showing a large wave crashing over a building and another showing a tsunami wave hitting a beach. On the right side, there is a large diagram showing a cross-section of the Earth's crust with a red arrow indicating the direction of plate movement. Below this diagram is a photograph of a tsunami wave hitting a beach. The student's handwriting is in blue ink, and the page is otherwise blank.

[illegible]

◎ 高学年

復興に必要なこと

- ①国・復興予算を早くくむ。自衛隊を配置
- ②県・復興計画を立てる。被災地へ物資を出しつぎな支援を月々する。
- ③市町村・住民の居住地を確保。心のケア
- ④民間人・支援金を出す ボランティア活動 (多くの人に参加したいです)

復興計画の進捗状況

項目	進捗状況
復興予算	不明
復興計画	不明
被災地へ物資	不明
支援金	不明
ボランティア	不明

復興計画の進捗状況

項目	進捗状況
復興予算	不明
復興計画	不明
被災地へ物資	不明
支援金	不明
ボランティア	不明

ライフラインの復旧		
阪神淡路大震災(神戸市) 東日本大震災		
電気	7日	数日~10日
水道	91日	2週間~ 1ヶ月半
ガス	85日	1週間~
電話	15日	
下水道	135日	
ゴミ処理場	35日	

食糧・水

家族の人数 × 3日分

父母小学生2人の4人家族の備蓄食糧(3日分)の例

スライスの水ペットボトル 6本

栄養強化ショートパン (1箱400g) 50箱

X50

もやい結び

- ①
- ②
- ③
- ④